

## 市立病院の職員教育

**市** 立病院にはよく行くが、嫌な思いをすることが多い。入院も何度かしているが、手違いが多いことに驚いています。職員の教育を徹底してほしい。

**回答**

**職員**の教育、特に接客マナーについては平成十年度から外部の専門講師に依頼し、接遇研修を集中的に行っており、市民の皆さんの期待に応えられる地域中核病院として、なお一層充実していきたいと考えています。

## 子育てに支援を

**子**どもを預けたいお母さんと預かりたいお母さんが協力する「子育て支援サークル」を市でつくってもらえないか。(東桂地区も同趣旨の要望あり)

**回答**

**フ**アミリーサポート事業(預けた人と預かりたい人を登録してサポートする)というのがありますけれど、五万人以上人口がないと補助金が出ないので、都留市で実施するとすれば単独事業でやらなければなりません。病気の子どもを預かる場合も当然でてきますが、慎重に検討する必要があります。

## 三吉開地地区



## 学童保育を考えて

**谷** 村地区には「さわやか教室」があるが、ほかの地区にはそういう施設がありません。小学生の子どもを持つ母親が安心して働けるように、学童保育を考えていただきたい。また、行政で地域の集会所を使えるように使用料を補助していただけないか。(木生地区も同趣旨の要望あり)

**回答**

**現在**、「リニューアルマスタープラン」の中で余裕教室や空き施設、コミュニティセンター、いきものふれあいの里、芝スキー場など全ての施設の見直しをしています。学童保育・児童館を含め今後の利用方法を検討していきます。

## 子どもエコクラブ

**子**どもエコクラブは、どのような形で進めるのですか。

**回答**

**今**年度三校をモデル校として指定し、環境保全のための活動を展開しています。今後も、順次指定校を増やしこの活動を進めていきます。

## 30人学級実現を

**小** 学校のクラスを一年生だけでも三十人学級にしていただけないでしょうか。(東桂地区も同趣旨の要望あり)

**回答**

**三** 十人学級にするクラス数が増え、先生も増えます。その経費が全体でおよそ八千万円かかります。市の単独事業での支出は今の財政状況では、非常に難しい状況です。

国では義務教育標準法の中で、学級数と定員数の見直しをしようという動きがあります。この中に「弾力的運用」という表現が使われていますが、予算的なものはまだ決まっています。国で予算がつけばすぐにでも三十人学級に移行できますが、現状では国の動向を静観するしかありません。

今後その方針が明らかになれば、必然的に三十人学級への取り組みができるものと考えています。

## 子どもの安全確保

**上** 戸沢の子ども達は、学校に通うのに距離があり大変な上、新しい道路が開通したことと温泉施設ができることで、交通量が増えますます危険な状況にさらされます。せめて側溝に蓋をして歩道を確認し、子ども達が安全に通学できるよう環境づくりをしてください。

**回答**

**側** 溝の蓋につきましては、県道なので自治会、PTAなどの組織と協力して県に要望していきます。

## 社会体育への移行

**中** 学校のクラブ活動は、授業の一環ではなく社会体育の一環としての捉え方をしているが、社会体育側ではまだ受け入れる体制すら整っていない状態です。指導者が先生でないクラブは、どうしてもうまくいかないらしく今のままでは子ども達がかわいそうです。

**回答**

**確** かに小・中学校のクラブ活動は、社会体育へ徐々に移行していくよう、というのが今の動きです。実際は、中学校や高校では先生に恵まれるかによって大分違ってきます。しかし、教員の採用は教制制をとっているため、なかなかうまく人材の充足ができないのが現状であり悩みでもありません。今後は、父兄や一般社会人などの指導者確保に向け考えていかなくてはならないと思います。